

平成 23 年 5 月 30 日

福岡県知事 小川 洋 様

有明海漁民・市民ネットワーク（福岡県漁民有志）

要 望 書

益々、ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、福岡県知事ご就任、おめでとうございます。新しい知事の下、新しい福岡県に生まれ変わるようで、我々も期待の気持ちでいっぱいでございます。

さて、有明海でございますが、1997 年 4 月の諫早湾の潮受け堤防閉め切り以降、年々、異変が進んでおります。

今年、海苔は、秋芽の頃は栄養塩不足による色落ちが心配されておりましたが、12 月に入り、気温が下がり、風も吹き、栄養塩の回復や病気の影響が少なかったことから、その後、比較的順調に摘採が進み、昨年に比べれば多くの枚数をあげることができました。また、全国的な海苔不足から、今まで値のつかなかった水準の海苔すらも売りあげることができました。そういったことが、過去 5 年間で最高額と報道等と言われている理由だと思われま

す。その海苔養殖でございますが、平成 12 年度の海苔の凶作以降、安定せず、さまざまな努力をしながら、毎年なんとか持ちこたえてきているのが実状です。また、福岡県の有明海沖では、人の手を加える海苔養殖だけではなく、タイラギやアサリ、その他の魚介類が以前は豊富に捕れていたものでした。が、昨今では厳しい状態が続いています。タイラギは、昨年、佐賀県沖の通常生息しない海域で貧酸素を逃れたタイラギが多数生息し、13 年ぶりに操業することができましたが、今年、佐賀県沖は全滅、福岡県大牟田沖の一部に貧酸素を逃れたタイラギが生息していたため操業致しましたが、昨年の四分の一ほどの水揚げにしかありませんでした。アサリも採れておりません。

昨年 3 月の麻生前県知事の会見では、潮受け堤防の排水門を開門した場合、調整池内の溜池状態の水が有明海に放流され、回復傾向にある漁場が再び悪化を招くとの危惧をされておりましたが、お話致しました通り、漁場は決して回復傾向にはなく、むしろ、悪化の一途を辿っております。また、実際は、諫早湾・潮受け堤防の排水門では、定期的に排水のみの開門がされており、諫早湾及び近郊だけでなく、有明海全体に被害が及んでいます。最近では春になると謎の浮遊物と呼ばれる粘着性のある物体が海を漂うことがあり、今年、特に被害が大きく、漁船漁業が行えない事態になっています。諫早湾及び近郊の漁業者は、排水門からの大量の排水の後に浮遊物が発生したと口を揃えて話しています。ここ、福岡県・有明海沖でも浮遊物が漂い、その影響か、魚やアサリが捕れておりません。私達漁業者は、このまま有明海は生物の全くいない静かな海になってしまうのではないかと心配でなりません。

我々は、現在の排水のためだけの開門ではなく、同時に調整池の中に海水を取り込む開門を求めています。調整池内を行き来する開門をすることで、潮流や海環境が以前に近い状態に戻り、真の有明海再生に繋がると信じているからです。

昨年暮れの福岡高裁での判決及び菅総理の上告断念により、有明海再生に向けて大きく動き出すものと期待しておりましたが、開門調査の実施は未だ具体化されず、また、地元・長崎県では開門反対の訴訟が行われるなど、我々漁業者の中では不安が募り始めています。

小川新県知事には、隣県の佐賀県や熊本県と連携し、昨年暮れの福岡高裁の判決に則り、速やかに開門調査が実施されますよう後押しして頂きたく、ここに強く要望致します。